


# 京都第一赤十字病院キャリアパス



平成28.1 継続教育委員会

## 教育の目標

1. 赤十字の職員として人々の尊厳と命を守り、行動できる。
2. 専門職業人として、自律的に看護実践能力を高め、質の高い看護サービスが提供できる。
3. 高度急性期医療の提供を社会的使命とし認識し、チーム医療を推進できる。
4. 教育施設としての役割を理解し、次世代を育成することができる。
5. 組織の一員としての立場と役割を認識し、経営参画できる。
6. 災害時に率先して救護活動ができる。

キャリアアップのためのアクション	目指すレベル	看護実践者	看護管理者	看護教員	国際活動委員
<p>大学院等</p>  <p>認定看護師教育課程</p>	V	<p>施設単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や家族にエンパワメントしながら卓越した看護サービスが提供できる。</li> <li>組織横断的な活動を行い創造性を持った実践を重ねることができる。</li> <li>医療・看護の質の向上に貢献することができる。</li> <li>赤十字事業の推進に向けて組織的な取り組みを実施している。</li> </ul>	<p>管理IV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営の幹部として活動し、部門運営の責任を担うことができる</li> </ul> <p>管理III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部門運営に於いて担当する役割の責任を担うことができる</li> </ul>	<p>教員IV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営の幹部として、教育及び学校運営の全般的な責任を負うことができる。</li> </ul> <p>教員III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護教員として、専門性を高め、リーダーシップが発揮でき、後輩教員の指導ができる。</li> </ul>	<p>国際VII</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分野を越えて国際活動を展開する</li> </ul> <p>国際VI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動を創造的に展開する</li> </ul>
<p>急性期病院で自律した看護職へ</p>	III	<p>部門単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定基準を持ちながら、予測困難な場面においても臨機応変な対応ができる</li> <li>看護専門職・役割モデル・赤十字の推進者としてスタッフに影響を与える存在</li> <li>看護部の目標を踏まえ、職場内の活性化に貢献できる</li> <li>研究活動を中心的に行い、教育活動も意図的な関わりができる。</li> </ul>	<p>管理II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部署運営の責任を担うことができる。</li> </ul> <p>管理I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部署運営において担当する役割の責任を担うことができる。</li> </ul>	<p>教員II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護教員として自己を探求し、主体的に教育実践ができる</li> </ul> <p>教員I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護教員として自覚を持ち、看護基礎教育について理解できる。</li> </ul>	<p>国際V</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動を主体的に展開できる</li> </ul> <p>国際IV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動における任務を理解し役割を遂行できる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動を通して、部署の課題を考え問題解決を図ってみる。</li> <li>教育担当者を行い教育計画を立案してみる。</li> <li>急性期病院の看護師として<b>専門分野を広げるために部署異動</b>を行う。</li> <li>看護研究を行う。</li> </ul>	<p>III</p> <p>自律して活動</p> <p>取得後3～4年</p>	<p>様々な知識(部署異動をして経験の幅を広げる)を活用しながら、対象個性や優先度を考慮した計画を立てて看護をする事ができる。</p> <p>看護部門の目標を意識しながら、部署のリーダーシップ(看護実践と委員会活動で養う)を取ることができ、研究計画書の立案や業務改善に積極的に取り組み、同僚の指導に関わることができる。</p> <p>赤十字看護師として必要な研修を受講し、さらに任務と心構えを理解し、<b>救護活動を実践できる状態</b>にある。</p>	<p>国際III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動に求められる実践能力を培い、活動のための準備ができる。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動を通して自己の看護を深める。</li> <li>部署の係の活動とおして部署の課題を考えてみる。 ・実施指導者や学生指導を行い、<b>後輩の指導</b>をしてみる。</li> <li>院内研修制度を活用や部署異動して、自己の方向性を考え視野を広げてみる。</li> <li>看護研究に協力する。</li> </ul>	<p>II</p> <p>自立して看護活動</p> <p>取得後2～3年</p>	<p>専門領域における知識を深め、対象の優先度を考慮した整合性のある計画を自力で立て、実践することができる。</p> <p>自ら、受け持ち患者にかかる医師やコメディカルに提案したり、<b>倫理的問題に気づく</b>ことができる。</p> <p>目標をもって、<b>自己教育</b>や<b>研究活動</b>を行い、新卒看護師の<b>心理的支援</b>ができる。</p> <p>災害救護演習などで<b>救護活動の実践能力を養う</b>ように努めている。</p>	<p>国際II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動に求められる基礎的な実践能力を培うよう努める</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護技術や知識だけではなく、専門職としての姿勢を先輩の後姿から学ぶ。</li> </ul>	<p>I</p> <p>指導や助言を得ながら看護活動</p> <p>入職後1～2年</p>	<p>マニュアルを見たり、助言を受けながら、<b>日常に必要な基本的知識を活用</b>し、優先度を決定することができる。</p> <p>看護者の倫理要綱を知っており、<b>対象を一人ひとりで尊重</b>できる。</p> <p>自分の役割と責任を認識しながらも、自分の能力を越えた看護が求められる場合には、支援や指導を自ら得たり、業務内容について<b>相談</b>できる。</p> <p>倫理的ジレンマに陥った時、<b>赤十字の原則</b>に基づいて行動しようとしている。</p>	<p>国際I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動に必要な基本的知識を身につける</li> </ul>		

